

No.60 イーエフペー —無題—

IFP

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年 11月1日付 立川市市報記事より

IFP (イーエフペー) はグループの名前。今は別れて仕事をしているが、この仕事を担当したのは、ジャン・フランソワ・ブランという建築学出身のアーティストだ。空とか水とか水平線といった自然の一瞬を写真で定着して作品に埋め込む。それらのイメージは、わい雑な都会の中であって、マグリットの絵のような不可思議な異世界の窓口になっている。

最近オープンした京都市の御池通りの地下街の入り口には、ブラン氏の、天井に傘、壁に竹や稲などの内照式の作品が埋め込まれていて好評だ。

都市の中に自然を持ち込むという手法は、地球温暖化や地球環境が緊急な国際問題になっている時代、ますます多くの人に受け入れられている。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

北川さんが初めて私に立川プロジェクトの話をされたのは、去年の夏のことでした。

立川のプロジェクト規模、選ばれた作家の数と質に、私は驚きました。

私たちはすぐに日本において異例ともいえるこの冒険に参加することに決めました。

私たちの提案は直径90センチの輪の形をした4つの照明灯のそれぞれの両側面に照明を当て、そこに青の背景に白い雲がいくつか浮かんでいる空の像が見えるようにするというものです。

これらの輪は高さ4メートルの円柱状に設置されます。

“穴”と消失点における単純な形体の遊びである以上に、これらの形は私たちにとって、空のホスピスの下での共同体の融合、平穏な生活の象徴となっています。

最後に作業開始の時から今に至る、プロジェクトの成功にかけるアート・フロントチームの断固たる意志と努力を、私は喜んで賞賛したいと思います。

この場を借りて心から感謝いたします。1994年10月に会いましょう

ジャン・フランソワ・ブラン